

【2年生対象】H30 学問発見講座

2年生全員を対象とした進路行事として、「学問発見講座」が10月12日（金）午後を実施されました。これは、実際に大学の先生方に来ていただいて専門分野の講義や研究内容の紹介をしていただくことで、大学や学問についての理解を深めることを目的とした行事です。今年度は、次の13講座を開講しました。

講座をご担当いただいた先生方からは、「発問するとすぐに相談して考えていることから、非常に熱心な様子うかがえた」「自主的に準備をして講座に臨んでいる生徒がいて驚いた」など、大変あたたかいお言葉をいただきました。講師の中には藤島OBの方もおられ、OBならではの目線から、後輩に向けたメッセージを残していただきました。先生方には大変お忙しい中、前もって講義の準備を下さっており、感謝申し上げます。

本講座で学んだことを活かし、自分や家族のためだけでなく、世界中の人のため、そして日本の将来のために、日々の勉強に取り組み、卒業後の進路に向けて前向きに取り組んでほしいと考えています。

【講師一覧】

	学問領域	所属・職名	氏名
①	国際学	金沢大学 国際学類 准教授	加藤 篤行 先生
②	教養学	国際基督教大学 教養学部 教授	半田 淳子 先生
③	教育学	福井大学 教育学部 准教授	松本 智恵子 先生
④	法学	一橋大学 法学研究科 教授	葛野 尋之 先生
⑤	経済学	福井県立大学 経済学部 教授	中西 泰之 先生
⑥	文学	大阪大学 文学部 教授	金水 敏 先生
⑦	医学(地域医療)	福井大学 医学部医学科 講師	山村 修 先生
⑧	医学(集中治療)	福井大学 医学部医学科 特命助教	齋藤 律子 先生
⑨	薬学	金沢大学 薬学類・創薬科学類 教授	國嶋 崇隆 先生
⑩	理学	大阪大学 理学研究科 准教授	寺尾 憲 先生
⑪	機械工学	東京大学 生産技術研究所 教授	吉川 暢宏 先生
⑫	建築学	東京工業大学大学院 総合理工学研究科 教授	元結 正次郎 先生
⑬	情報学	名古屋大学 情報学部 教授	北 栄輔 先生

【各講座の様子】

① 国際学



英語での講義ということで、英語で難しい内容を講義されるなんて理解できない！と思いましたが、難しい表現は言い換えてくださったり、和製英語との違いの説明を交えたりしながらの講義だったので、自分なりに講義の内容を理解することができました。私は元々国際学部志望でしたが、最近経済学部にも興味がわいてきました。しかし、国際系の学部を選択しても、興味のある経済学部との関連があり、経済学部も学ぶことができるということが一番の発見でした。先生がおっしゃっていたように自分に自信をもってこれから頑張ります。

② 教養学

リベラルアーツ（教養）のリベラルとは「自由な」の意味。何からの自由なのかというと、「既成概念からの自由」なのだ、というお話を聞いて、教養とはすべての学問の土台であることを意識しました。自分が当たり前だと思っていたことを疑い、研究することで新たな発見があり、自分の中に蓄積されていくのを今日の講義から感じました。私は今まで、教養教育と専門教育は別のもの考えていましたが、教養的な基礎知識は専門分野につながり、専門分野を探究する際には無限の視点から「学際的に」アプローチできるという認識を持つことができました。大学へ進学してからも貪欲に多方面の知識を吸収していきたいです。



③ 教育学



ケルビンさんの「データを分析できないものに、知的進歩はなく貧弱なものになるだろう」という言葉を聞いて私は正論だと思いき、すぐ共感することができました。私がこの講座で面白いと思ったところは「数学と統計の違い」についての部分です。私は今まで数学の一部に統計があると思っていましたが、100%正しいとは限らないし、結果誤差省略しているし、統計の結果は、答えを出して終わりの数学とはベクトルが全然違っていることが分かりました。私もこれからは何かにチャレンジするときはずまず目的を持って取り組み、結果を比較して「何がいけなかったのか」「どこが良かったのか」振り返りをするので、次に活かせるようにしようと思います。

④ 法学

少年法の適応年齢引き下げに対する様々な分野からのデータを基にした見解に始まり、いろいろなことを学び、そして吸収することができました。特に印象に残っていることは、実定法学を学ぶ意義についてです。法学部では司法試験に学生を合格させるために法学を教えているのではなく、直面したトラブルについて平和的に客観的に解決の糸口を見つけていく力を養うために学んでいる、すなわち、目に見える成功ではなく真の意味でのコミュニケーション能力をつけるために大学に通っているという意見には、考えさせられるものがありました。何のために大学を目指し、何のために法学部に通って法に触れるのか、もう一度しっかりと考えてみようと思います。



⑤ 経済学



経済学には以前から興味があったけど、実際に話を聞くのは初めてだったのでとても良い機会になりました。特に印象に残っているのは、借金だけでなく資産も見ろべきだという話です。自分はずっと借金は良くないことであり、極力しない方がいいのかなと思っていました。しかし、借金があってもそれ以上に資産があるなら大丈夫であり、企業も借金をして投資することで経済成長にもつながるので、借金は決して悪いことではないと知ることができました。

また、日本政府は緊縮財政によってグローバル化が進み、日本人労働者の雇用が減っているようにしている。得をしているのは先進国の富裕層だけである。日本の経済における世界的ポジションは決してよくないので、より良い日本になるようにこれからの経済政策に注目してみたいと思います。

⑥ 文学

私は映画や小説などの作品を、登場人物一人ひとりに注目して掘り下げて考えながら楽しむことがあるので、今日の講義は学問的にも趣味的にも興味深いものでした。話し方によってキャラクターの人物像を掴むということはよくありますが、作中での役割によって話し方を細かく工夫しているということは初めて知り、今まで見てきた作品について当てはめながら楽しく聞くことができました。作品を楽しむための観点を新しく得ることができて、これから作品を読んだり見たりするのが楽しみになりました。



⑦ 医学（地域医療）



様々な災害が起こる日本で災害医療の知識を広めることは、被災者の健康を確かなものにしていくうえでとても重要なことだと感じました。それぞれの災害が被災者にどのような影響を与え、どのような病気が増えるのかを知っているだけでも、必要とされるものや職業が分かり、災害医療の効率化につながっていくのだと思います。

先生が紹介してくださった組織の中で、特に JMAT という組織に興味を湧きました。福井にも個人チームが 10 ほどあるようで、もっと増えていけばと思います。

病気の治療だけでなく、患者さんが社会の中でどのように生活していくのか、治療中も病気を完治させた後でも広い視野をもって社会に貢献できる医師になりたいと思います。

⑧ 医学（集中治療）

集中治療や麻酔に関する知識を知る機会は今まであまりなかったもので、今回の講義はとても新鮮でした。特に印象的だったのは、麻酔医は地味な仕事だけど大切な仕事だということです。ただ麻酔を打つのが仕事なのではなく、その麻酔の量を 1cc 単位で微調整していくなんて繊細な仕事だなと思いました。

今までの医学講座は専門的な話が多かった中、先生の話には医師の日常や機械の写真、エピソード等が織り交ぜられており、大変分かりやすく、医学部に入ることのイメージがより鮮明になってモチベーションが上がりました。医者になるためにより努力しようと思います。



⑨ 薬学



今日の講義を聞いて、薬学へのイメージが変わりました。

特に印象に残ったのは「危険ドラッグ」についての模擬講義です。数年前頻繁にニュースに取り上げられていて、危険という事実は知っていたのですが、化学構造を見ながら、どうしてそれらがすぐに法律外になってしまうのかという疑問を解消することができました。

実際に薬学に関わっている方から研究する魅力を聞かせていただくことができ、薬学の研究がいかに社会に貢献できるか、一生かけてやる価値があるのかを感じることができました。私も将来薬学を学び、研究したいという気持ちが強くなりました。

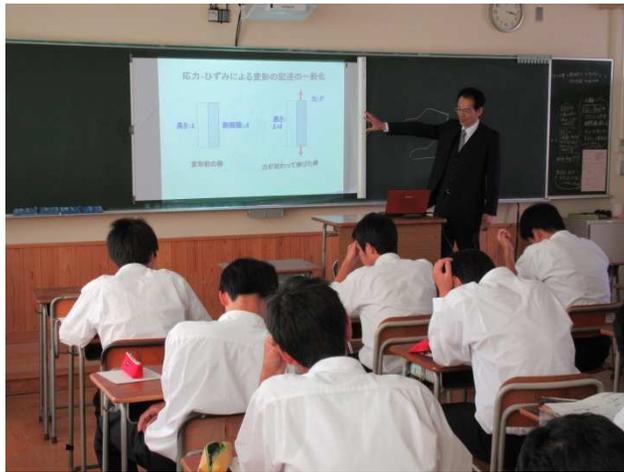
⑩ 理学

2年生から化学の授業が始まった中で、分子についての話を聞くことができ、とても嬉しかったです。納豆のネバネバがポリγグルタミン酸によって生じて、それが塩によってサラサラになるという話を聞いたとき、「納豆を食べた後の箸はみそ汁につけるといい」と聞いたこととつながっていて、身近に感じることができました。

「どうして青い水を使って、赤い水は使ってはいけないのか。それは光を吸収するから。」「どうしてコガネムシは光っているのか。それは光を反射するから。」今まで何となく見過ごしていたことを分子レベルで説明できるということがとても興味深かったです。身近なことに関連していて、使い方によっては毒にも救世主にもなりうる化学は奥が深いものであると改めて感じることができました。



⑪ 建築工学



普段の授業では聞けないような専門的な話を聞けたということが、大変良い機会となりました。吉川先生は藤島高校出身ということで、なんだかとても身近に感じましたし、福井のような田舎の高校からでも日本や地球レベルの大きなものに貢献できるのだなと感じました。

講義中に原子力を応用したエンジンのロシアでの実験があった。確かに福島第一原発やこのロシアでの実験では多くの犠牲者が出ており、原子力は大変危険だという一方で、裏をかえせば、簡単にエネルギーを大きくできるので、ぜひこれからの研究で応用されないかなと思いました。バイオエネルギーを利用したエンジンも同様であり、これからの地球においてどちらも大きな課題であると思うので、自分が研究する立場になったら、ぜひこの課題に取り組みたいと思います。

⑫ 建築学

建築はあらゆる分野につながっているのだとあらためて感じた。私は将来、音楽ホールや設計や研究、楽器製作に関わりたいと考えていて、そこには今日出てきた見た目としての美しさだけでなく、音響の美しさも考えていく必要があります。理系の学問でも心理的・芸術的な面において文系と深く関わっているなと思った。建築は他の工学と違って何度も実験するのは難しく、シミュレーションや模型での実験でしか確認することができないのに、この世界に様々なたくさんの美しく機能的な建築物が存在していることはすごいことだなと感じつつ、人間はある程度本能的にどのようなものが安全かを分かっているからなのかなと思った。だからこそ、理にかなった形に人間は美を見出すのかなとも感じた。



⑬ 情報学



農業や金融、人の動きなどは、それぞればらばらに動く個体の集合であり、細かく予想することが難しいというイメージがあるが、どの場合も人々や植物の目的が確実にいくつかあり、すべての行動はそれに基づいているので、個体の持つ能力やそれによって生じる結果の変化について知り、正しい結果を予測する、というものが情報学という学問なのかなと思った。そう簡単に言っても、研究開発においては「人間が使えるもの」「人に害を及ぼさないもの」など、様々なことに気をつけなければいけないし、どれだけ進歩を求めて研究を進めても、人間がコントロールできない範囲にまで進んでしまうと、情報を集め、解析した意味がなくなってしまうので、リスクを考慮しなければならないと思った。